

学 校 経 営 計 画 (4月)				評 価 (3月)		
学校運営方針		教育基本法及び学校教育法の精神に基づき、心身ともに逞しく、豊かな人間性と創造性を備え、国家の繁栄と人類の平和に寄与する生徒を育成する。			A	
昨年度の成果と課題		今年度重点目標		具体的目標		
あらゆる教育活動において、嘉穂高生としての自覚を持ち、人間としての「氣高さ」を有する生徒の育成にむけての指導を充実させることができた。 本年度で2年目を迎える週33単位時間授業を実施をとおして、生徒の学力のさらなる向上を図り、生徒の第一進路希望実現を目指す。また、創立113年目の歴史と伝統を踏まえ、地域の期待に応える教育活動を実践していく。		1 嘉穂高生としての強い自覚を持ち、人間としての「氣高さ」を有する生徒を育成する。 2 文武両道の精神を重んじ、豊かな情操とともに、逞しく生きるための知力・体力・精神力を備えた生徒を育成する。 3 真理と正義を愛し、生命あるものを尊び、「思いやりの心や共に生きる心」と「人権」を尊重する生徒を育成する。 4 日本文化と伝統を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、社会の発展に貢献せんとする「志」のある生徒を育成する。 5 高い目標を掲げて粘り強く努力し、将来の地域や日本を担う、強いリーダーシップを持つ生徒を育成する。 6 広い視野を持ち、国際社会で信頼されるために必要なコミュニケーション能力や異文化を理解する態度を備えた生徒を育成する。		1 すべての教育活動の中で人間としての「氣高さ」を追求する指導を行う。 2 学力向上に対する地域の期待に応えるために、生徒の意欲を引き出す丁寧な指導を行い、生徒の進路希望を実現を目指す。 3 様々な生徒の個性や能力を伸ばし、学力の向上と部活動や学校行事の活性化を図る。 4 スーパーサイエンスハイスクール指定校の利点を最大限に活用し、生徒が夢をもって学習に取り組むための事業を推進する。 5 中高一貫教育校開校に向けての準備を充実させ、地域の教育に対する期待に応える。		
各 部		今年度重点目標				
1 教務部		豊かな創造性と個性に富み、積極的に自己実現を目指し、あらゆる機会をとらえ「学び続ける意欲」と「粘り強さ」を備えた「衝天の意気」を有する生徒を育成する。				
2 生徒指導部		人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念や豊かな心を持ち、伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、公共の精神を尊ぶ等の道徳性を身に付け、人間としての「氣高さ」を有する生徒を育成する。				
3 進路指導部		真理と正義を愛し、何事にも真摯に取り組む姿勢と確かな学力を身に付け、広い視野と行動力を持ち、社会や地域の発展に貢献せんとする「志」ある生徒を育成する。				
4 研修部		教師の教科指導力や生徒指導力等を高め、PTAや同窓会を中心とした地域の教育力を活用し、人間としての「氣高さ」を追求するとともに、嘉穂高生としての気質と確かな学力を兼ね備えた生徒を育成する。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		
教務部	教務班	1 生徒の第一進路希望実現に向けて、新学習指導要領に対応した教育課程・授業・家庭学習の在り方を研究する。	1 生徒の第一進路希望実現に向けた学習活動をさらに充実させるため、新学習指導要領に対応した効果的な教育課程を研究する。	A	・来年度の中高一貫校開校に向けてカリキュラムの再検討・見直しを行うことができたので、今後はしっかりと実施計画を立てていく。 ・家庭学習時間のクラスや個人によるばらつきが大きい。各学年と連携して家庭学習時間を増加させる方策を練り、実行に移す必要がある。	
		2 生徒の自主的な学習習慣の確立および教員の教科指導力の向上を図り、生徒の学力を向上させる。	2 自主的な学習習慣の確立に向け、定期的に学習時間調査を実施し、1日平均3時間以上の家庭学習時間を達成する。	B		
		3 中高一貫校の開校に向け、設立準備室と密接に連携する。	3 来年度の中高一貫校の開校に向け、設立準備室と密接に連携し、協力を行う。	A		
			4 基本的生活習慣の重要性を教員・生徒ともに意識することにより年間の学校全体の欠席・遅刻・早退数を前年度比で各10%以上減少させる。	A		
			5 教員の教科指導力の向上及び生徒の学力向上を目指し、研修部・各学年・教科と連携し、具体的な学力向上方策を実施する。	A		
	図書班	1 生徒の読書意欲を喚起するために校内向け広報紙の紙面を充実させ、図書館利用者を増やす。	1 図書委員会が作成する校内向け図書広報紙の発行回数を、現在の学期に1回から学期に2回程度に増やす。	A		・来年度も図書広報紙の発行をほぼ月1回発行し、生徒の図書館利用増加の一助にする。朝読書の導入に伴い、朝読書の意義を生徒に理解させ推進し、図書館利用の増加につなげていく。また、中学生の図書館利用についても具体策を考えていく。
		2 保存用資料の収集をさらに徹底して行い、管理の仕方を見直す。	2 中高一貫を見据えて、中学生も利用できるように中学生向きの図書を充実させる。	A		
		3 図書貸出の方法をコンピュータ処理し、統計・延滞図書の催促等を迅速に行い、図書の管理を徹底する。	3 資料収集をさらに徹底して呼びかけるとともに、収集した資料が利用しやすいように整理し、紛失等を確実に防ぐ。	A		
		4 貸出統計の方法が簡易化することに伴って、統計データを図書館報等に載せることで、生徒の読書意欲喚起の一助とする。	B			

	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
生徒指導部	生徒指導班	1 「時を守り、場を清め、礼を正す」を生徒指導の基本に据え、嘉穂高生としての自覚と誇りを持ち行動できる生徒を育成する。 2 自立心と思いやりの心、逞しさを身に付けた生徒の育成に努める。 3 規範意識に優れ、自浄能力を持つ学校及び生徒の育成に努める。 4 生徒会を中心に学校行事の企画・運営を行い成功させる。	1 全校朝礼・始業式・終業式において国歌・校歌を斉唱させ、規律や礼節を重んじ、気高さや品位に満ちた態度を養う。生徒会を中心に潤陵祭・運動会等の学校行事の質的向上と指導力の育成を図る。	A	B	・生徒会の活動を学校生活の諸問題にも目を向けさせ、規範意識の向上を図る。 ・部活動集会、部室点検及び周辺の清掃、ボランティア活動等を引き続き定期的に行い定着させる。 ・中高一貫に伴う生徒指導上の諸問題について、可能な限り予測し事前の対策を図る。 ・全職員で生徒指導にあたるため、共通認識を持ち職員の意識をさらに高める。
			2 非行防止講演会・風紀検査・登校指導に全職員で定期的に取り組み、風紀の向上・規範意識の向上に努め、特別指導0を目指す。	B		
3 交通安全講話・自転車点検・駐輪場指導を実施し、登下校時のマナー(自転車マナー・送迎マナー等)の向上を図り、交通事故0を目指す。			B			
4 学期に1回の部活動集会を実施し、部活動や学校生活の在り方を振り返らせ、学校の牽引者としての意識を培う。			A			
生徒指導部	保健班	1 自己の健康状態を把握し、健康の保持増進を確立できる生徒を育成する。 2 生徒の心の健康を図り、自己の健康管理意識の高揚を図る。 3 特別な教育的支援を必要とする生徒への支援を推進する。 4 美化活動をとおして、愛校心や公共物を大切にす精神を育む。	1 スクールカウンセラーによるカウンセリングを年に9回実施し、生徒・保護者の心の健康を図る。	A	A	・不登校生徒への対応マニュアルを完成させる。 ・心配な生徒について全職員間で情報共有する機会を持ち、適切な支援を行う。 ・美化コンクールにとどまらない校内美化活動を推進する。 ・ゴミの減量化に向けて具体的な方策をとる。
			2 健康に関する相談事業を学校行事にあわせて適宜実施し、生徒の充実した学校生活をサポートする。	A		
			3 特別な教育的支援を必要とする生徒への支援を推進するため、AED(自動体外式除細動器)の研修や心の専門家による不登校生徒への対応マニュアルを作成する。	B		
			4 安全点検を全職員で各学期に1度行う。	A		
			5 美化委員会と連携しながら、美化コンクールを通じた校内美化と、ゴミの減量化を推進する。	B		
進路指導部	進路指導班	1 社会に貢献できる人材の育成と、自己実現に向けて努力する姿勢を身に付けさせる。 2 進路実現のための学力をもつ生徒を育成する。 3 自他の人権や生命をしっかりと尊重し、積極的に行動できる生徒を育成する。	1 進路講演会やキャリア教育を実施して、生徒や保護者の進路意識の向上と適切な進路情報の提供を行う。	A	A	・進研模試を各学年、各教科で分析し全学年で連携をとって討議しその結果を生徒に還元していく。 ・総学やHRにおける進路関係の内容をもう少ししっかりと計画していく。 ・人権・同和教育授業の新たな教材の作成や研修内容の検討する。
			2 第一志望への進学率を上げるために、課外授業・土曜講座・模擬試験を効果的かつ効率的に企画する。	B		
			3 人権を尊重する意識や態度を育成するため、年4回の人権教育授業やホームルーム活動を通して、生徒への働きかけを継続して行う。また職員研修の充実を図り、職員の人権感覚を高める。	A		
進路指導部	情報班	1 パソコン教室のより有効な利用方法を考案するとともに、ICT機器を活用した授業時間数の増大を図る。 2 校務用ネットワークの周辺機器やソフトウェアの整備およびその有効活用を図る。 3 CMSへ移行された学校HPのタイムリーな更新手順を考案する。	1 更新されたパソコン教室稼働率を高めることを目指しつつも、パソコンやプロジェクター等ICT機器を活用した普通教室での授業を推進し、ICT機器を活用した授業を同一時間で複数教室展開しICT機器の延べ利用時間数の増大を図る。	A	A	・1についてはインタラクティブプロジェクタの整備、2についてはソフトウェア・周辺機器の購入が望まれる。 ・3についてはさらにCMSについて研究しより使いやすいシステムを作り上げる。
			2 教材作成や校務に必要な不可欠なソフトウェアや周辺機器を校務用パソコンで利用できるように整備を進める。	B		
			3 本校のHPの更新を、CMSを利用して職員全員が適時に行えるような簡便な更新システムを考案する。	A		
研修部	庶務班	1 関係機関との連携を図りながら、校内における庶務全般を円滑に行う。 2 防災教育の推進。 3 中学校等への広報活動計画を行い、実施する。 4 PTAを中心とした地域社会と良好な連携を強化し、幅広い教育を活用して、豊かな人間性と創造性を備えた生徒の育成に寄与する。	1 職員の座席・ロッカー・戸棚、靴箱等の割り振りを行い、職員室の環境作りに努める。また、食堂への校時変更、行事の連絡、職員会議の記録など庶務全般を円滑に行う。	A	B	・職員室の備品管理を徹底し、よりよい環境づくりを行う。 ・学校紹介のパワーポイントの内容を検討し、特色と魅力を伝えることのできる学校紹介を作成する。 ・防災避難訓練のマニュアルを見直し、より実践的な内容にする。 ・中学生体験入学の内容を見直し、充実させる。
			2 従来実施している避難訓練を再点検の上実施し、防災非難訓練の充実を図る。また、防災マニュアルを周知徹底することにより実践的な自主防災活動を推進する。	B		
			3 中学生の体験入学、中学生進路相談事業の内容を充実させる。また、中学校、塾等の訪問を積極的に行う。	B		
			4 各委員会活動の活性化を図る。学校評議員会や学校関係者評価委員会をとおして、地域の声を取り入れ、学校教育に生かす。	B		
研修部	研修班	1 「気高さ」を有する生徒を育成するための指導力の向上を目指して各分掌・学年と連携を図りながら、有意義かつ計画的な研修体制を確立する。 2 「力をつける授業」をキーワードにし、生徒・保護者・地域の進学実績向上を目指す。	1 校内研修(生徒指導、進路指導等に関する研修)を年に4回実施する。	A	A	・研究授業3カ年計画の完成年度であるので、計画の完全実施を目指す。 ・定期考査や模擬試験後後の成績分析会を100%の実施していく。 ・校外研修参加を継続し促していく。
			2 校外での各種研修への参加率80%以上を目指し、案内を強化し、積極的参加を促す。	A		
			3 定期考査や模擬試験の結果をもとに各教科で教授法等の検証を行い、成績分析会等の実施率を100%とする。	B		
			4 研究授業3カ年計画の2年目であるので、この2年間で各教科で約3分の2の教師が研究授業を終了させる。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
第1学年	1 部活動への入部を奨励し、文武両道の精神を有した生徒の育成に努める。 2 学習に対する基本姿勢の確立を目指し、粘り強く取り組むことが出来る生徒の育成に努める。 3 大学入試に耐えうる基礎学力の定着に努める。 4 「元気な挨拶が飛び交う学年」を目標に、若者らしい澁刺とした生徒の育成に努める。	1 部活動を奨励し、教室外での幅広い人間関係を構築させる。部活動入部率80%以上を目標として取り組む。	A	B	・基本的な生活習慣と学習習慣のさらなる徹底を図り、進路実現をするための確かな学力を身に付けさせる。特に小テストに向かう姿勢の徹底を図る。 ・きちんとした挨拶や大きな声で返事をするなどの嘉穂高生としてあるべき姿を確立させる。 ・あらゆる機会を利用して学年のリーダーを育て、嘉穂高校の次代を担う意識を持たせる。
		2 あらゆる機会を利用し、生徒と個別に話をする場を極力設け、3時間以上の家庭学習時間を確保する工夫と、5回の考査と4回の模試に向かう姿勢について指導する。	B		
		3 成績上位層に対する指導も大切であるが、第1学年では、中位・下位層に対する指導を再考する。特に、今までの生徒観をリセットし、今までの指導法や教材選定に捉われない指導も取り入れる。	B		
		4 面談週間を利用して正しい言葉遣いや入室指導を、また日常の授業を通して元気な挨拶や授業を受ける姿勢など、徹底したマナー・エチケット指導を行う。	B		
第2学年	1 志を高くもたせ、進路意識の向上に努めさせる。 2 互いに思いやり、尊重する人権意識の向上に努めさせる。 3 基本的な生活習慣の更なる確立とマナーアップの精神の向上を目指す。	1 各自が、しっかりと進路を見据え、学習意欲に満ちた授業態度を実践させることで、各自が、更に上の大学受験に挑戦する学年の雰囲気を作る。	B	A	・家庭学習時間の確保に努めさせ、弱点教科の克服に努めさせる。 ・進路実現に向けて、最新の進路情報を提供し、入試攻略の糸口をつかませる。 ・最上級生として、他の範となるように文武両道を成し遂げ、何事に対しても「誇り」と「信念」をもって邁進していく力強い人間力の育成に努める。
		2 有益な友好関係を築かせ、愛校心を育み、学校生活が生活の中心となるよう潤陵祭や運動会等の学校行事に積極的に取り組ませる。	A		
		3 高い出席皆勤率を維持し、登校時間の厳守、服装頭髪の整美、公共マナーのアップを徹底することで人格の向上を目指し、嘉穂高生としての「誇り」を身につける。	B		
		4 部活動での役割や活動を充実させ、生き活きとした学校生活を実現させる。また、生徒会、応援団などのリーダーシップを養う。	A		
第3学年	1 本校最上級生として、高い「志」と人間としての「気高さ」を追求させる。 2 進路実現に向けて、最後まで粘り強く取り組むことができる生徒の育成に努める。 3 礼節を重んずる、逞しく心豊かな生徒の育成を目指す。	1 社会生活に必要なルールやマナーを理解・遵守・徹底させる。特に、「元気な挨拶、素直に話を聞く、時間厳守」等の基本的な生活習慣をきちんと身につけさせる。	A	A	・学校行事ではリーダーシップを取れたので、今後は、いろいろな場面で「嘉穂魂」を発揮できるように指導していきたい。 ・基本的な生活習慣と学習習慣は身に付いた。しかし、希望進路実現に対応できる学力はまだ身に付いていない。そこで今後は、2年生の3学期頃から希望進路実現への取り組みが必要である。
		2 国公立大学120名、難関大学30名の合格者を目標とし、「基礎・基本」を重視したきめ細かな学習指導を行うとともに、習熟度別授業や個別指導等とおして、生徒の第一希望進路を実現させる。	B		
		3 希望進路実現に向けて、計画的、自主的、自律的に家庭学習や自学自習ができるように指導する。	A		
		4 様々な学校行事に積極的に参加させ、「リーダーシップ、思いやりの気持ち、コミュニケーション能力」を持った生徒を育成する。	A		
理数科	1 「特進クラス」としての位置づけを校内外で明確にし、個々の生徒の学力を伸ばさせることにより進路志望の実現を図る。 2 研究者や社会人による講演・実習など生徒の将来を見据えた取組を強化する。 3 様々な面で学校を牽引していこうとするリーダーシップと創造力、企画力を養う。	1 難関大学及び医・歯・薬学部の合格者10名以上を目指し、徹底した学習指導を行う。	A	A	・学年に応じた適切な学習量を確保できるように指導する。 ・SSH等の活動で高度な知識・技能の習得が出来たので、次年度は更に内容の充実を図る。 ・課題研究に関しては、綿密な計画の下に、学年をまたぐ活動にするなど内容の充実を図る。
		2 生徒の進路意識を高め、第3学年に進級する前に全員が明確な進路希望を持てるよう指導する。	A		
		3 学校行事、SSH等の行事に積極的に参加させることにより、企画・運営力を育成し、リーダーとしての意識を高めさせる。	A		
		4 課題研究と校外での成果発表を通して、理数に関する深い知識と高いプレゼンテーション能力を養う。	B		
スーパーサイエンスハイスクール(SSH)	1 大学等との連携により、日常の研究活動に対する意識を高める。 2 地域の科学的行事に積極的に参加する意識を涵養する。 3 SSHの内容や教育活動を広く地域に普及させる。	1 サイエンス部及び理数科の研究の質を向上させ、各種発表会への参加数及び入選数を増加させる。	A	A	・理科・数学の教員による理数科課題研究の指導体制が整った。さらに質の高いものにするために高大連携を深めていく。 ・本年度は潤陵館の耐震工事のためSSH成果発表会を理数科対象とした。来年度は全校生徒を対象として行いたい。
		2 SSH学校設定科目の指導内容及びティーム・ティーチングの体制を確立する。	B		
		3 SSHの活動を全校に広めるため、全校生徒対象の取組を検討し、実施する。	B		
		4 JSPや成果発表会、他機関との連携行事により、積極的に嘉穂高校をアピールし、志願者の増加を図る。	A		
武道・日本文化コース	1 わが国の伝統や文化を理解させる。 2 学力・競技力で高い志を持たせる。 3 武道・日本文化コースの生徒に相応した「気高さ」を持つ生徒を育成する。 4 国際社会の一員として生きていく資質やコミュニケーション能力を育成する。 5 第一進路希望実現を図る。	1 わが国の伝統や文化を理解するために、学校設定科目を学習させ、特に「日本文化実習」の充実を図る。	A	A	・基本的な生活習慣の確立と、学習の大切さを入学後すぐに指導していく。また、諸活動に積極的に参加させ、学校のリーダーを育成する。 ・評価については、武道・日本文化コース委員会及び担当者会議で統一した基準を確認する。 ・新入生オリエンテーション・集会・講演会は継続して行う。 ・進路意識を高めさせるようなキャリア教育を行っていく。
		2 習熟度別授業を取り入れ、生徒の学習モチベーションを高めるとともに、個に応じた指導の充実を図り結果を出す。	A		
		3 礼節を学ぶとともに、規範意識をもたせ、武道・日本文化コースの中から学年及び学校の核となる生徒を育成する。武道・日本文化コース集会を行う。	B		
		4 学校行事に積極的に参加させ、コミュニケーション能力を育成する。また、講演を実施し、生徒の資質向上を図る。	A		
		5 高い目標を持たせ、卒業生による進路講演を行うなど進路実現に向けた指導を行う。推薦で進路を決定する生徒が多いので、評価については、一年次から職員間の意思統一を図る。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
確かな学力の育成	1 週33単位時間授業を効果的に行い、観点別学習状況の評価及び言語活動の充実の視点を取り入れた授業を実施する。 2 評価規準を明確にし、指導と評価の一体化に学校全体として取り組む。 3 生徒の自主的な学習意欲の向上及び学習習慣の確立を図るとともに、教員の教科指導力をさらに向上させる。 4 現役での国公立大学合格者数120名以上、難関大学30名以上を実現する。	1 新しい学習指導要領の各教科の目標、各科目の目標及び内容、国立教育政策所が示した「評価規準作成、評価方法の工夫改善」を参考に評価規準の設定に取り組む。また、評価規準の設定を含めた指導と評価の計画、具体的な評価方法等について研究を行う。	B	A	・学習指導要領の趣旨を踏まえた目標に準拠した観点別評価について、指導と評価の一体化にむけ研究する。また、学習評価を授業の改善に生かせるよう、効果的な指導方法を各教科別に具体的に研究する。
		2 生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に生かすという視点を一層重視し、教師が指導の過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図っていく。	A		
		3 相互授業参観や生徒による授業評価を積極的に活用し、教員の意識改革に取り組み、指導力の向上に努める。	A		
		4 学校全体が組織として、生徒の第一希望進路の実現に向け取り組めるよう、各分掌や学年が機能的に連携できるよう改革を促す。	B		
いじめの撲滅	1 職員間で「いじめ問題」の共通理解を図り、学校全体で問題に取り組む。 2 家庭・地域との連携を図り、「いじめ」の早期発見に取り組む。 3 保護者や関係諸機関と連携を図りながら、「いじめ問題」の早期対応に努める。 4 日頃から「いじめ問題」を防止する教育活動に努める。	1 携帯電話・インターネットを介したいじめ問題や非行防止に関する講演会等を行うとともに、職員研修をとおして、「いじめ問題」に対する理解を深め、「いじめ問題」への対応の共通理解を図る。	A	A	・「学校いじめ防止基本方針」の見直しを行い、いじめ撲滅について更なる共通理解を図る。 ・生徒の携帯電話・インターネットの利用方法を分析し、講演会や啓発活動をとおして、ネットトラブルを未然に防ぐ対策を行う。 ・家庭や地域との連携を深め、組織的な取り組みを行う。
		2 年に1-2回の学校生活アンケート及び年2回の家庭用チェックリストを集約し、生徒からのいじめのサインを早期に発見して、適切な対策を講じる。	A		
		3 「いじめ問題対策委員会」を開き、「いじめ」に対する緊急の対応及び中・長期的な対応を検討し実行する。	A		
		4 人権・同和に関するHR活動や日常の教育活動を通して、「いじめ」に対する認識を深め、被害者、加害者、傍観者の立場から生徒に考えさせる。	A		